

# ミュージアムパーク茨城県自然博物

関係機関・団体等と連携した

## 海岸動物学習プログラムの開発と実施

実施期間：2024年5月1日（水）～2025年6月15日（日）



### 【事業の内容・目的】

- 地域の専門家や教育者等からなる「茨城の海産動物研究会」と協働し、これまで茨城県の沿岸域に生息する動物を調査してきた。それらの調査で蓄積された成果と新たに得られた知見を基に、磯に生息する動物を学ぶための海岸動物学習プログラムを開発する。
- 関係機関・団体や内陸地域の博物館と連携し、今回開発した海岸動物学習プログラムを活用して磯の動物の観察会を実施する。また、連携機関・団体が主催する様々なイベントにおいても、本プログラムを活用する。
- 様々な機関や団体等が連携することにより、「海の学び」のネットワークを広げて地域の活力を向上させ、より多くの人々に海やそこに生息する生きものについての関心や理解を深めていただく。



## 活動の様子

### 1. 海岸動物学習プログラムの開発

【日時】2025年3月完成

【連携団体】茨城の海産動物研究会

【参加者数】延べ20名

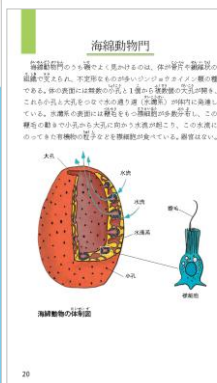
【活動内容・目的】

●「茨城の海産動物研究会」と協働し、観察会をはじめ、家庭や学校で磯に生息する動物を学ぶための海岸動物学習プログラムを開発した。

- ① 冊子「茨城の磯の動物ガイド」
- ② 茨城の磯の動物ビンゴ
- ③ 大判シート「磯の動物系統樹」
- ④ 茨城の磯の動物解説ボード
- ⑤ 磯の動物ラベル

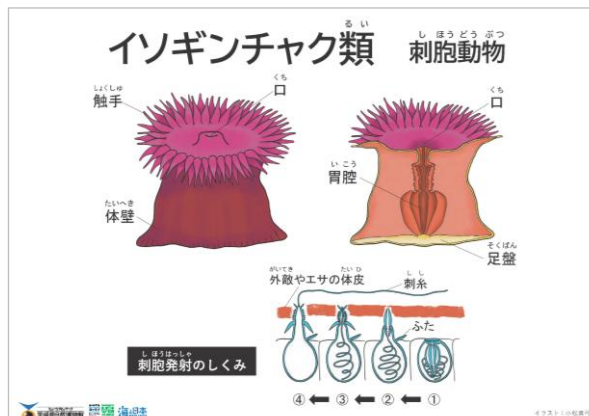


地域の研究者や教育者等からなる「茨城の海産動物研究会」と協働し、これまで蓄積されてきた茨城県の沿岸域に生息する動物調査の成果を基に、磯に生息する動物を学ぶための海岸動物学習プログラムを開発した。本プログラムについては、関係機関・団体と協働して開催した磯の動物の観察会で活用した。



「茨城の磯の動物ガイド」は111頁からなる携帯用の図鑑である。海綿動物、刺胞動物、扁形動物、環形動物、軟体動物、苔虫動物、節足動物、棘皮動物、脊索動物の9つの門からひたちなか市の磯で比較的普通に観察できる海岸動物約120種を取り上げ、写真と簡潔な解説で紹介している。「茨城の磯の動物ビンゴ」はひたちなか市の磯で観察できる海岸動物29種を対象に表に写真、裏に解説を掲載し、観察しながら使用できるように製作した。観察会では、参加者に小シールを渡し、観察できた動物にシールを貼ってもらった。下敷きとしても利用することができる。

これらのプログラムは観察会等のイベントで活用したが、参加者が持ち帰って、自宅でも茨城の海とそこに生息する動物について学ぶことができるため、「海の学び」の効果はより大きなものとなったのではないと思う。



「磯の動物系統樹」はひたちなか市の海岸で観察できる9つの動物門の系統関係が分かる大判の系統樹シートである。採集した動物を入れたトレイが置けるようなスペースもつくった。その他、観察会で動物の解説を行う際に使用する各動物群の体制図が描かれた「磯の動物解説ボード」と観察会で磯の動物を分類するための「磯の動物ラベル」も製作した。

### 【参加者の声】(「茨城の磯の動物ガイド」「茨城の磯の動物ビンゴ」を配布した方々の感想)

○持ち運びがしやすく、カラーでとても見やすい。磯にはいろいろな生き物がいることがわかった。実際に磯で生き物を観察したいと思った。(7才女子)

○写真、絵、説明が分かりやすかった。海はいろいろな生き物の生息地で、茨城の海にはたくさんの生き物がいることが分かった。どうして海にはたくさんの種類の生き物がいるのか知りたくなった。(9才女子)

○写真が豊富で説明が詳しく分かりやすい。海は多様な生きものが生息しており、その生態系を維持するために環境を守っていく必要性を考えるきっかけになった。(保護者)



## 2. 関係機関・団体と連携した自然観察会等の開催

### 【名称・開催日】

- ①自然ラボ（観察会）「磯の動物を観察しよう」2024年5月25日（土）
- ②自然観察会「磯の生き物観察会2024」2024年5月26日（日）
- ③観察会「磯の生物勉強会」2024年6月8日（土）
- ④自然ラボ（観察会）「磯の動物を観察しよう」2025年5月17日（土）（中止）
- ⑤自然観察会「磯の生き物観察会2025」2025年6月1日（土）
- ⑥「海の日」イベント「磯の生きものを観察しよう！」2024年7月15日（月）

【主催】①④⑥ミュージアムパーク茨城県自然博物館、②⑤地球レーベル、  
③公益財団法人 水産無脊椎動物研究所

【開催場所】①③平磯海岸（ひたちなか市）、②⑤磯崎海岸（ひたちなか市）、  
⑥ミュージアムパーク茨城県自然博物館

【参加者数】合計203名（①49名、②43名、③41名、④21名、⑤49名） ※④：「茨城の磯の動物ガイド」と「茨城の磯の動物ビンゴ」を希望する子ども（14組21名）に送付し、感想を送っていただいた。  
※⑥：参加人数はカウントしていないが、当日の入館者数は4,316名。

### 【活動内容・目的】

- 一般の人々が地域の海とそこに生息する多様な生きものに対する理解を深め、海への興味喚起を起こす機会を提供するため、地域の関係機関・団体や内陸部の博物館と連携し、茨城の磯の動物に関する観察会やイベントを5回実施した。
- 2025年に開催した観察会では今回開発した海岸動物学習プログラムを活用して実施することができた。
- これまで連携してきた関係機関・団体に、新たに内陸地域に位置する博物館も加わったことにより、より充実した内容となり、関係者間の交流も深めることができた。



アクアワールド茨城県大洗水族館、茨城の海産動物研究会、公益財団法人 水産無脊椎動物研究所、地球レーベルと連携し、地元のひたちなか市の海岸で磯の動物の観察会を毎年開催してきたが、今回、新たに海のない内陸地域に位置する群馬県立自然史博物館と栃木県立博物館も加わって観察会を実施した（栃木県立博物館は協力、それ以外の機関・団体は共催）。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。





観察会では、関係機関・団体の専門家が動物群の解説を担当した。参加者に質の高い内容を提供するだけでなく、解説者も多角的に海や海の生き物についての知識や経験を深めることができた。



群馬県立自然史博物館では、2017～2018年に船の科学館「海の学び」サポートの支援で体験型アウトリーチ補助教材として、ウニ類、マガキ、アサリの布製拡大模型を開発した。今回の観察会では、それらの教材も活用させていただいた。ウニ類の解説では、咀嚼器官（アリストテレスの提灯）など、ウニ類の体の内部構造について、模型を使って分かりやすく解説した。このような拡大模型の活用により、参加者の理解がより深まったのではないと思う。





2025年に開催した観察会では、今回開発した磯の動物の解説ボード、系統樹シート、ラベルを活用して解説を行った。また、「茨城の磯の動物ガイド」と「茨城の磯の動物ビンゴ」も配布したが、家庭で継続的な海の学びが生まれることが期待できる。



気軽に磯の動物に親しんでいただくため、アクアワールド茨城県大洗水族館と連携し、海の日に「磯の生きものを観察しよう！」を開催した。ミュージアムパーク茨城県自然博物館のディスカバリープレイスに茨城の磯の動物の生体等を展示し、解説を行った。

### 【参加者の声】

○海にはたくさんの種類の動物がいることが分かり、これからもっと海のことを知りたいと思った。(9才女子)

○磯にたくさんの生物が生活しているのが見られたのが興味深かった。潮の満ち干を感じたり、プラスチックのゴミもあつたりと、今の海を実際に感じる事ができた。(大人)

○いろいろな海の生き物の名前を知ることができ、自然にたくさん触れられたことがよかった。海を大切にとっていかなければならないと感じた。(大人)

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



### 3. 関係機関・団体における海岸動物学習プログラムの活用

#### 【名称・開催日】

- ①サイエンストーク「茨城の海の骨なし動物たち」2025年4月26日(土)
- ②参加型プログラム「自然体験塾 バッコ釣り」2025年6月14日(土)
- ③ワークショップ「自然科学スタンプラリー&貝殻に絵を描こう  
ワークショップ」2025年5月10日(土)
- ④磯の観察会「親子で楽しむ海の生き物わくわくウォッチング2025」  
2025年5月31日(土)

【主催】①ミュージアムパーク茨城県自然博物館、②アクアワールド茨城県大洗水族館、③地球レーベル、④公益財団法人 水産無脊椎動物研究所

【開催場所】①講座室、②磯磯海岸(ひたちなか市)、③つくばセンター広場、④観音崎自然博物館

【参加者数】①33名、②19名、③約50名、④38名

#### 【活動内容・目的】

- 多くの人々に海やそこに生息する生きものについての関心や理解を深める機会を提供するために、ミュージアムパーク茨城県自然博物館や関係機関・団体が開催したイベントにおいて今回開発した「茨城の磯の動物ガイド」や「茨城の磯の動物ビンゴ」を活用した。



海や海にくらす生きものに関心のある人たちにより理解を深めていただくため、関係機関・団体が単独で主催するイベントにおいて、「茨城の磯の動物ガイド」を紹介していただき、参加者に配布した

#### 【参加者の声】

- 平磯海岸にはよく家族で出かけます。今回の講義を受けて今まで見落としていた生物を発見したいと思った。(大人)
- 脊椎動物より無脊椎動物の方が多くの種があるので、磯にいる生き物に対して興味が高まった(大人)
- いろいろなことを学べ、生き物がもっと好きになった。(子ども)

## 【事業全体のまとめ】

本事業では、地域の研究者や教育者等からなる「茨城の海産動物研究会」と協働し、海岸動物学習プログラムを作成し、関係機関・団体と協働して開催した観察会の中で本プログラムを使用することができた。参加者の感想文を見ると、本プログラムは一般の方々にも好評である。また、これまで連携してきた関係機関・団体に海のない内陸地域の博物館2館も新たに加わり一緒に観察会を実施することができ、交流・連携を深めることができたことは大きな成果であった。

茨城県内には海洋リテラシー教育を推進している小学校もある。今後、小冊子「茨城の磯の動物ガイド」については共催の観察会や関係機関・団体のイベントで活用する他、茨城県内の小中学校や高等学校の授業や部活動等で、幅広く活用していただく予定である。引き続き、関係機関・団体の連携体制を強固にしながら、「海の学び」の活動を広げ、一般の方々の海に対する興味関心や意識を高めていきたいと考えている。

## 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 茨城の海産動物研究会	「茨城の磯の動物ガイド」、「茨城の磯の動物ビンゴ」等の製作
2. アクアワールド茨城県大洗水族館	磯の動物の観察会の開催（共催）、プログラムの活用
3. 公益財団法人 水産無脊椎動物研究所	磯の動物の観察会の開催（共催）、プログラムの活用
4. 地球レーベル	磯の動物の観察会の開催（共催）、プログラムの活用
5. 群馬県立自然史博物館	磯の動物の観察会の開催（共催）
6. 栃木県立博物館	磯の動物の観察会の開催（協力）

## 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 「A・MUSEUM」 （ミュージアムパーク茨城県自然博物館自然博物館ニュース）	トピックス③『「茨城の磯の動物ガイド」を出版しました！』（2025年6月15日）
2. 「地球らいぶ7月号」 （地球レーベルの機関誌）	「地球レーベル磯の生き物観察会 2025 磯崎海岸で観察した生き物を紹介！」（2025年6月25日）

以上